

第2節 長野県内における奈良平安時代の墳墓

次に、長野県内における奈良・平安時代の墳墓について若干の整理を行い小結としたい。

長野県内の奈良・平安時代の墳墓を扱ったものには、すでにいくつもの優れた論稿がある。古くは藤森栄一¹の論稿があり、最近では遠藤藤麻呂²が火葬墓について集成と整理を行い、桐原健³、原明芳⁴は土墳墓について考察を行っている。ここではまず、それらの成果に学びつつ、奈良・平安時代の長野県における墓制の大きな流れについて整理してみたい。

長野県内、ここでは特に中南信地域の奈良・平安時代の墳墓について管見したものについて整理してみた。(第2表)

奈良・平安時代の墳墓は、大きく土墳墓と火葬墓に分けられる。火葬墓には、蔵骨器のない火葬墓、土器蔵骨器の火葬墓、有機質の蔵骨器の火葬墓などがある。また、土墳墓とされるものも、規模や形態が多様で、かつ骨片が残存することのほうが稀で、多くの土坑のなかでどれが墓として機能していたかを確定することは困難な場合が多い。ここでは、僅かでも骨片が残っていたもの、等身大以上の土坑で副葬品と思われる遺物が出土したもの、棺の存在が想定できるようなもの等を根拠として土墳墓として把握した。

さて、これを整理したものが第10図である。

まず、伝統的埋葬形態である土墳墓についてみたい。土墳墓は、奈良時代から平安時代全般を通して存在する。時期の知れるものでは8世紀代2例、9世紀代7例、10世紀代7例、11世紀代13例を数える。長方形あるいは長楕円形で長軸規模2メートル以上のいわば定形的なものは、9世紀後半から例が急激に増え、10世紀・11世紀をとおして増加する。明らかに大棺墓と想定できるものも何例もある。また、副葬品は、遺構により若干の差はあるものの、杯、碗、皿などの食器類と、長頸甕あるいはミニチュアの甕などの組み合わせによる土器の副葬を基本とし、それに鏡、鉄剣、紡錘車などの日常用具を加えるのが一定の形となり、この形式を整えるのは9世紀後半である。土墳墓の営まれる場所についてみれば、集落周辺部や、台地上に営まれることもあるが、各時期を通して集落内に置かれることが多く、集落からまったく隔絶した墓地に土墳墓を営むことはないようである。副葬品の土器量の多寡や内容の差異は、恐らく被葬者の階層をものがたるのであろう。

次に、火葬墓は火葬人骨を伴った遺構をさすが、土器蔵骨器と蔵骨器を確かめられないものの2者がある。土器・蔵骨器を伴わないものでは、素甕りの土坑と石組のものがあるが、石組のものについてはかならずしもその実態は明らかでない。素甕りの火葬墓は、規模や形状は様々で、火葬地が他にあり焼骨を集めて埋葬したと考えられるもの、火葬地を墓墳としたものなど多様である。県内他地域の例をみればおそらく8世紀前半から出現し、平安時代を通して存在したと考えられるが土墳墓にくらべ少ない。

岡谷市大久保B遺跡の例は、石室内に八花鏡とともに火葬骨を埋葬したものである。横穴式

石室の系譜上にあると思われる石室と、火葬墓の両形態を合せ持った墳墓として注目される。八花鏡の鋳造時期等から8世紀代の所産と考えられている。集落とはかけ離れた位置に墓域を成している。

次に、火葬蔵骨器についてみたい。確実に焼骨を伴った蔵骨器は、第2表にあげた7例であり、発掘調査により出土状態が記録されたものは、本例と吉田川遺跡の例のみである。このうち新井原例は、宮の上墳墓例同様に、灰軸陶器短頸壺を蔵骨器として、須恵器と黒色土器Aの杯Aを蓋に転用していた。短頸壺は、宮の上墳墓のものより胴部最大幅が高い位置にある形態で、形式的にこれよりやや先行するものである。また、蓋に転用されていた須恵器と黒色土器Aの杯Aも樋口内城15号住段階から反目62号住段階に当たり、9世紀中葉の年代が与えられよう。岡谷市金山東遺跡の例は、灰軸陶器長頸壺、小瓶、碗ともに光ヶ丘1号壺式のものであり本遺跡例とほぼ同じ時期と考えられる。伴出した陸平永實の初鋳が796年であることもこれと矛盾しない。笑輪町の山麓部から出土した、須恵器の横瓶、短頸壺を蔵骨器とした3例も、土器の形態から9世紀代の所産と考えられよう。吉田川西遺跡SM01の例は、須恵器の長頸壺ではあるが口頭部の大きな形状で類例は少ない。灰軸陶器広口瓶の形態に近いものだが、在地での須恵器生産の終了時期を考え合わせれば、10世紀前半から中葉までの時間幅のなかで考えられよう。以上のように、火葬蔵骨器は、今のところ8世紀にさかのぼる確実な資料は確認できず、主体は、9世紀で、なかでも9世紀後半の例が多い。10世紀後半以降の例は無い。埋葬地についてみれば、金山東遺跡、吉田川西遺跡の例が集落内に営まれたと考えられる他は、集落から離れた山麓や、古墳群内、斜面上などに営まれている。

奈良・平安時代の墳墓の墳墓としてこのほかに、古墳の造営と石室への埋納がある。伊那谷では中川村六万部古墳、豊丘村家の上古墳などで、確実に8世紀前半まで古墳への追葬が行われており、松本平では、松本市新村安塚古墳群や秋葉原古墳群等で8世紀前半まで、古墳の造営が続けられていたことが知られている。また、古墳の横穴式石室を利用した埋葬が、平安時代をとおして行われていたという指摘もある。

以上の状況をまとめれば、次のようになろう。長野県において、8世紀段階では古墳への埋葬と、土墳墓、火葬墓が存在する。8世紀前半までは古墳の造営が行われ、横穴式石室への追葬も続けられる。土墳墓も存在するが、火葬墓が営まれるようになり、古墳からの過渡的な状況として大久保B遺跡墳墓例のように、石室に火葬骨を埋納する例もある。しかし、確認できる土墳墓や火葬墓は極めて少なく在地における家父長層の埋葬形態は、古墳が主体であったと考えられる。8世紀後半の段階の様相は明確にはとらえられないが、9世紀の墳墓は、火葬墓と土墳墓によって特徴付けられる。火葬墓は9世紀に入って土器蔵骨器によるものが盛行し、集落から離れた古墳群内や山麓などに営まれることが多い。土墳墓は、9世紀後半に至って平面長方形で多くの副葬品を納める定形的な土墳墓の形態を整える。そしてこの土墳墓は集落内に営まれるのが通例となる。10、11世紀においては、定形的な土墳墓が主体で、火葬墓は少な

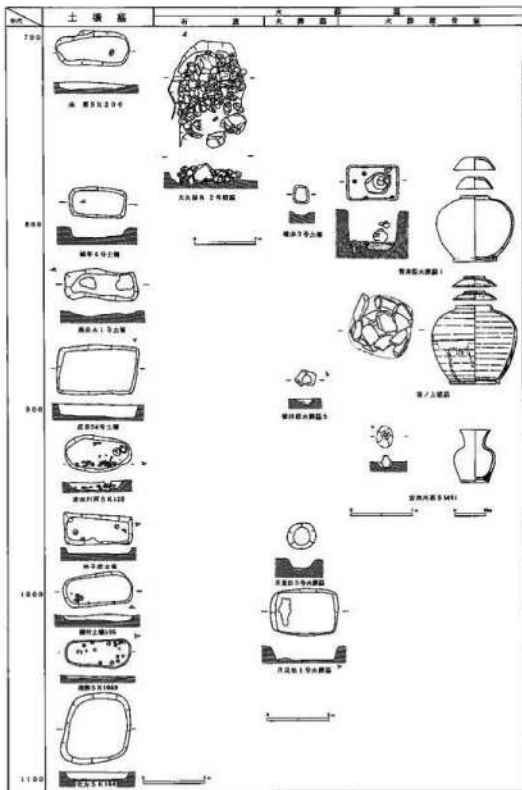
い。集落内に墳墓を設けることは前代とかわらない。

奈良・平安時代においては、おそらく一般民衆墓は簡単な土墳墓として営まれるか、遺体を荒地や川原などに遺棄したものと考えられるから、これまで述べてきた火葬墓あるいは副葬品を伴う土墳墓の被葬者は、それぞれの段階において集落の指導的な役割を担った富裕農民など有力者であったと考えられる。長野県における集落の有力者の墓は、8世紀前半までは古墳への埋葬、9世紀になって土器蔵骨器等による火葬墓が盛行するが9世紀後半をピークに急速に火葬墓は減少し、10世紀以降は多くの副葬品を伴う土墳墓が主体となるというのが大きな流れとして指摘できそうである。これは、時間的なずれはあるものの、黒崎直が指摘する奈良・平安時代の近畿地方の墳墓の状況と対応できそうである。

ところで、奈良・平安時代の火葬墓の普及については、仏教思想の浸透によってもたらされた新しい墳墓形態の導入ととらえられることが多い。しかし、墓制としての火葬の定着をみせなかった状況から見ると、被葬者の仏教への帰依というよりもむしろ中央貴族層の葬制の変化に反応した、集落の新しい指導者の指向という理解のほうが良いのではなかろうか。

9世紀後半と考えられる宮の上火葬墓の被葬者は、先に述べた律令村落崩壊のなかで村の指導者となった富豪層と考えられ、8世紀に中央で盛んに行われた地方にも普及していた火葬墓を自らの墳墓とした。しかしながら、この墳墓が営まれた9世紀後半には、すでに中央では火葬墓は下火になっており、この地方でもさらに新しい墓としての土墳墓が、新しい村の有力者たちの間に広がりつつあったのである。宮の上遺跡の火葬墓は、このような古代の墓制の変換期にあつて、一方のあり方を典型的に示す重要な資料といえる。また、歴史的な重要性もさることながら、農作業中の偶然の発見でありながら、その後の措置によって墳墓の構造が記録され、さらに、蔵骨器が優美な姿のまま完形で検出された例としても貴重な資料といえるのである。

本報告書を執筆するにあたり、斎藤孝正氏からは灰軸陶器について指導頂き、桐原 健氏、原 明芳氏からは、奈良・平安時代の墳墓について多くの教示を頂いた。多くの示唆を頂きながら考察にいかせなかったのは筆者の力不足である。お詫びをし、記して感謝したい。本報告が、古代墓制研究の一つの資料に加えられれば幸いである。



第10図 伊那谷における古代の墳墓

引用参考文献

- 桐原 健 1976 「信濃における平安期土墳墓の性格」『信濃』28-1
- 1988 「奈良平安時代の信仰と葬制」『長野県史』考古資料編
- 黒崎 直 1980 「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集VI』奈良国立文化財研究所
- 小平 和夫 1990 「古代の集落」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』
- 1990 「上伊那における古代土器の編年的考察」『上伊那郷土館研究紀要』第12集
- 1990 「上伊那における9世紀後半の集落」『上伊那教育』第81号
- 遠藤藤麻呂 1984 「日本各地の墳墓 中部・北陸」新版『仏教考古学講座』第7巻 墳墓
- 富永 樹之 1993 「奈良平安時代の墓制」『神奈川県の考古学の問題点とその展望』神奈川県立埋蔵文化財センター
- 原 明芳 1989 「SK128をめぐる問題」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西遺跡』
- 1988 「長野県の9世紀後半から12世紀の食膳具の様相」『長野県埋蔵文化財センター紀要』2
- 藤森 栄一 1941 「奈良時代の火葬骨壺」『古代文化』12-3

註

- (1) 土器蔵骨器による火葬墓については、ここに上げたほかいくつかの報告がある。今回は、蔵骨器内に焼骨が確認できたものに限ってとりあげてある。
- (2) このなかには、有機質の蔵骨器が含まれる可能性がある。
- (3) 中南信地方では確認できないが、8世紀前半にさかのぼる例として、紫掘りの土坑に焼骨を置き、須恵器の杯、蓋を何枚も重ね覆った例が坂城町豊焼堂遺跡群で確認されている。

第2表 長野県内（中・南信地域）における奈良・平安時代の墳墓

No.	遺跡名	所在地	遺跡名	遺構の 形態	出土・産物	立地	周辺の遺跡 との関係	時期	文献
1	新井原	南田市	大群墓1	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1、黒色土器A類(1)、灰 器類(1)	丘陵斜面	宮路外古墳群内	9C中	1
2	金山	南谷町市	大群墓(合葬)	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1、小瓶(1)、銅(1)、黒平 水鏡(1)	平地地	宮路内	9C後	2
3	宮の上	南谷町村	大群墓(合葬)	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1、銅(1)	段丘斜面	宮路外	9C後	本報告
4	知久沢山	南谷町	大群墓(合葬)	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1	山麓	宮路外	9C	3
5	知久沢山	南谷町	大群墓(合葬)	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1	山麓	宮路外	9C	3
6	南小川内	南谷町	大群墓(合葬)	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1	段丘上	不明	9C	4
7	吉田川	南谷町	S.M.1	大群墓(合葬)	灰釉陶器(炊飯器)1	平地地	宮路内	10C	5
8	新井原	南田市	土坑16	大群墓	青銅器	平地地	宮路外古墳群内	9C	6
9	新井原	南田市	大群墓1	大群墓	灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵斜面	宮路外古墳群内	9C後	6
10	新井原	南田市	大群墓3	大群墓		丘陵斜面	宮路外古墳群内	9C後	6
11	新井原	南田市	大群墓4	大群墓		丘陵斜面	宮路外古墳群内	9C後	6
12	新井原	南田市	大群墓5	大群墓	灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵斜面	宮路外古墳群内	9C後	6
13	月見松	伊都町	大群墓1	大群墓		段丘面上	宮路内	11C前	7
14	月見松	伊都町	大群墓2	大群墓		段丘面上	宮路内	11C前	7
15	月見松	伊都町	大群墓3	大群墓		段丘面上	宮路内	11C前	7
16	城山	山形町	3号土坑	大群墓	灰釉陶器(炊飯器)1	山麓斜面	宮路外	9C前	12
17	金井原	高遠町		土坑墓	黒色土器A類(5)、銅(1)、鉄器(1)、土器印	段丘面上	不明	9C後	8
18	城山	伊都町	4号土坑	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1	山麓斜面	宮路内	9C前	9
19	大塚	伊都町	1号土坑	土坑墓	土器印(1)	山麓斜面	宮路内	9C前	9
20	南丘	伊都町	1号土坑	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1	段丘斜面	宮路内	9C中	9
21	神子	南谷町村	土坑墓	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1、銅(1)、土器印 (2)	段丘先端	宮路外	10C後	10
22	中	南谷町	M12号土坑	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1	平地地	宮路内	8C	11
23	城山	山形町	1号土坑	土坑墓	土器印(1)、灰釉陶器(炊飯器)1	山麓斜面	宮路内	10C前	12
24	城山	山形町	2号土坑	土坑墓	土器印(1)、灰釉陶器(炊飯器)1	山麓斜面	宮路内	10C前	12
25	御狩野	南谷町市	土坑1	土坑墓	土器印(1)、銅(1)、小瓶(1)、灰釉陶器 (炊飯器)1	台地中央	宮路外	10C後	13
26	城山	伊都町	1号土坑	土坑墓	土器印(1)、銅(1)、鉄器(1)、土器印 (1)、灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵上	宮路外古墳群内	11C前	14
27	城山	伊都町	2号土坑	土坑墓	土器印(1)、銅(1)、灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵上	宮路外古墳群内	11C前	14
28	城山	伊都町	3号土坑	土坑墓	土器印(1)、銅(1)、鉄器(1)、土器印 (1)、灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵上	宮路外古墳群内	11C前	14
29	城山	伊都町		土坑墓	土器印(1)、銅(1)、鉄器(1)、土器印 (1)、灰釉陶器(炊飯器)1	丘陵上	不明	11C前	14
30	吉田川	南谷町市	S.K.12B	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1、銅(1)、鉄器(1)、土器印 (1)、灰釉陶器(炊飯器)1	平地地	宮路内	10C中	5
31	吉田川	南谷町市	土坑墓	土坑墓	灰釉陶器(炊飯器)1、銅(1)、鉄器(1)、土器印 (1)、灰釉陶器(炊飯器)1	山麓	宮路外	11C中	15

No.	遺跡名	所在地	遺跡名	遺構の部	出土遺物	立地	同時期の遺跡との関係	時期	文献
32	石上	松本市	土橋墓	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 黒色土器A群(0)品(2), 釘	平地	墓内	9C 後	16
33	南	松本市	S K 300	土 墳 墓	金環(1)	平地	墓内	8C 前	17
34	南	松本市	S K 176	土 墳 墓	灰釉陶器類(2), 鉄器(4), 土師器類(1), 黒色土器A群(1), 黒色土器B群(1), 八幡鏡(1)	平地	墓内	11C 中	17
35	南	松本市	S K 190	土 墳 墓	灰釉陶器類(3), 土師器類(1)	平地	墓内	11C 中	17
36	南	松本市	S K 349	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 土師器類(1)	平地	墓内	11C 中	17
37	南	松本市	S K 514	土 墳 墓	土師器類(2), 銅(1), 釧(1)	平地	墓内	11C 後	17
38	南	松本市	S K 1069	土 墳 墓	灰釉陶器類(3), 銅(1), 鉄器(3), 黒色土器A群(0)	平地	墓内	11C 中	17
39	北	松本市	S K 43	土 墳 墓	黒色土器A群(4), 銅(2)	平地	墓内	9C 後	18
40	北	松本市	S K 50	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 土師器類(3), 釧(1)	平地	墓内	11C 後	18
41	北	松本市	S K 164	土 墳 墓	土師器類(26), 銅(3), 釧(1)	平地	墓内	11C 後	18
42	中二子	松本市	S K 4	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 銅(1), 土師器類(2), 銅(1), (ニエミエア型)	平地	墓内	10C 後	20
43	殿村	山形村	土橋 106	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 土師器類(4)	平地	墓内	11C 前	21
44	殿村	山形村	土橋 27	土 墳 墓	灰釉陶器類類(1)	平地	墓内	9C 後	21
45	反目	野々根	54号土橋	土 墳 墓	灰釉陶器類(1), 銅(1), 小銅(1)	段丘面上	墓内	9C 後	22
46	大久保	岡谷市	1号墳墓	石 塚		山麓	墓内	8 C	23
47	大久保	岡谷市	2号墳墓	石 塚	八花鏡(1)	山麓	墓内	8 C	23
48	大久保	岡谷市	1号石塚墓	石 塚 墓		山麓	墓内		23
49	勝間	岡谷市	1号石塚墓	石 塚 墓	須恵器長皿	山麓	墓内	9C 前	24
50	勝間	松本市		合口埴輪墓	土師器類(2)		不明	9C 中	24
51	富士電気敷地	松本市		合口埴輪墓	土師器類(2)	平地	不明	9C 中	24

一覧表引用文献

- 1 座光寺村史編纂委員会 1993 『座光寺村史』
- 2 藤森栄一 1930 「陸平永宝を伴出せる蔵骨器」『考古学』1-2
- 3 上伊那誌編纂会 1965 『上伊那誌』第2巻歴史編
- 4 笑輪町 19 『笑輪町誌』
- 5 長野県教育委員会 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3
一塩尻市内その2-吉田川西遺跡』
- 6 飯田市教育委員会 1986 『恒川遺跡群』
- 7 長野県教育委員会 1974 『昭和48年度長野県中央自動車道埋蔵文化財包蔵地発掘調査
報告書-伊那市内その2-』
- 8 高遠町 1983 『高遠町誌』上巻歴史1
- 9 長野県教育委員会 1973 『昭和47年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-伊那市西春近-』
- 10 南箕輪村教育委員会 1969 『神子柴遺跡緊急発掘調査報告書(第3次発掘調査)』
- 11 長野県教育委員会 1974 『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-上伊那郡箕輪町-』
- 12 長野県教育委員会 1974 『昭和48年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-諏訪市内その1・その2-』
- 13 長野県教育委員会 1976 『昭和50年度長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
-茅野市・原村その1・富士見町その2-』
- 14 茅野市 1986 『茅野市史』上巻
- 15 塩尻市教育委員会 1991 『富南沢遺跡』
- 16 松本市教育委員会 1991 『薄町・石上・鎌田遺跡』
- 17 長野県教育委員会 1990 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7
-松本市内その4-南栗遺跡』
- 18 長野県教育委員会 1990 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8
-松本市内その5-北栗遺跡』
- 19 長野県教育委員会 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10
-松本市内その7・豊科町内一南中・北中・北方・上手木
戸遺跡』
- 20 長野県教育委員会 1989 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書5
-松本市内その2-神戸・上二子・中二子遺跡』
- 21 山形村教育委員会 1987 『殿村遺跡』
- 22 駒ヶ根市教育委員会 1990 『反目・遊光・殿村・小林遺跡』
- 23 長野県教育委員会 1987 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1
-岡谷市内-』
- 24 桐原 健 1955 「松本市筑摩出土の火葬骨壺」『信濃』7-4